

■鳥取県内市町と企業が一堂に集う最大級の移住イベント 『鳥取県 IJUターンBIG相談会』にオンライン参加しました！



新型コロナウイルス感染拡大の影響で対面での移住相談会が難しくなる中、これまで小規模な相談会がオンラインに切り替えられてきましたが、毎年1月に東京・大阪会場で開催されていた鳥取県市町と企業が集う最大級の移住・就職イベント『鳥取県 IJUターンBIG相談会』もオンラインでの開催となりました。

今回は「EventHub(イベントハブ)」というサイトを利用して、オンライン上でイベントに参加し、鳥取県市町、企業、移住相談者がお互いに情報交換やコミュニケーション、面談できるシステムになっておりました。

1月16日(土)～17日(日)の2日間に渡って開催された相談会には18市町と34の企業が参加。順番にプレゼンテーションやセミナーのライブ配信を実施し、移住や就職を希望する相談者との個別面談をオンライン上で予約し、対応するという形式で進めていきました。

我々も“8分間”という限られた時間で『江府町のここがすごい!』と江府町の魅力を全力で画面の向こうにいる相談者にプレゼンテーションしました!!すると「“三千人の小さな町”ということに興味を持ちました」と一人の青年から個別面談の予約が入り、いろいろとお話することが出来ました。そして、「緊急事態宣言」が解除されたら、江府町を訪れて頂くことになりました!!



昨年までは大会場にスタッフや来場者など大勢の人が集い、市町や企業が互いに協力して相談者へ声掛けして会場全体でフォローするという大変活気溢れるイベントでしたので、初めは『これほどまでの大規模な相談会がオンライン上で出来るのだろうか...』という不安もありました。しかし、実際に「BIG相談会」がスタートすると、主催者のふるさと鳥取県定住機構や県庁スタッフから来場者や参加市町・企業へメールでの“声掛け”がどんどん入り、オンライン上でも鳥取県全体が“ワンチーム”となった相談会となりました◎!!

■「鳥取来楽暮カフェ」オンライン移住相談会 = 第2回 = ~やっぱりtottori-west [鳥取西部] でくらそう! ~

年末も押しせまる令和2年12月26日(土)、ふるさと鳥取県定住機構、鳥取県立関西ハローワーク、ふるさと回帰支援センター、鳥取県宅地建物取引業協会、鳥取県、そして、鳥取県西部6市町とがタッグを組んで、「第2回オンライン相談会〜仕事と暮らし〜」が開催されました。

仕事のこと。暮らしのこと。

鳥取県西部 [米子市・大山町・南部町・江府町・伯耆町・日南町]

12/26 (sat.) 13:00 ~ 16:00

参加費無料

zoom開催

申込先: 公益財団法人 ふるさと鳥取県定住機構 大阪駐在 大阪市北区梅田1-1-3 220 大阪駅前第3ビル22階

電話 / 090-2916-5184 (総合) [受付時間 月~土 8:30~17:15] / 080-1932-8319 (個別) [受付時間 月~土 土日祝 12:00~20:45]

メール / iju@furusato-tori.org

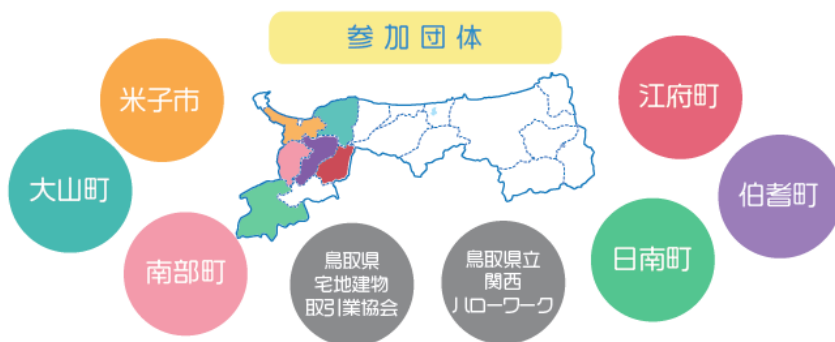
鳥取県立ハローワーク・吉田相談員のセミナーでは

- ①鳥取県への移住者数の推移と移住目的の傾向
- ②鳥取県では仕事はあるの？
- ③給与面は都市部よりどう違うの？
- ④いつ頃から仕事を探せばいいの？…など等、様々な情報提供がありました。

セミナー	パネルトーク
<p>鳥取県での仕事の探し方</p> <p>鳥取県立関西ハローワーク 吉田相談員</p>	<p>わたしのまちの日常</p> <p>いつも買い物に行くスーパーは？ゴミ出し事情どうなってるの？休日は何して過ごす？暖房器具は何使ってるの？などなど、暮らさないと分からない日々の生活の様子を聞いてみようと思います！</p>

パネルトーク「わたしのまちの日常」では

- ①雪はどれくらい積もるの？
- ②暖房費はどれくらいかかるの？
- ③買い物はどこまで行くの？
- ④休日は何して過ごしているの？
- ⑤病院は近くにあるの？…など等、参加団体全員により、ざっくばらんに常日頃の生活を紹介しました。



『鳥取県は仕事が無い』とよく言われますが、鳥取県立ハローワーク・吉田相談員のセミナーを聞いて「人口比では都市部よりも企業数が多い」「鳥取県の企業への転職を目的に移住する割合が40%以上もある」ことを知り、「仕事が無い」は全くの認識違いであることを学びました。我々も江府町内の企業情報をしっかりと得て、移住希望者に寄り添ったサポートをこれからも心がけていきます！！



■NPO法人こうふのたよりでは「江府町ふるさと納税」にも携わっています！！



NPO法人こうふのたよりでは、「移住定住」や「空き家情報バンク」の業務だけではなく、平成30年4月1日より江府町から『ふるさと納税』の業務委託を受けています。

主に「ふるさと納税の受付」、「寄附金受領証明書にかかる業務」、「返礼品にかかる業務」を行なっております。

ふるさと納税業務も頑張っています！！



【ふるさと納税】とは…

個人の方が、故郷や応援したい自治体に寄附された場合、2千円を超える部分について、一定の限度額まで所得税と住民税を合わせて全額控除される仕組み。

毎月、『町報こうふ』にもふるさと納税の「申込件数と寄付金額」が載っています。ご覧になってお気づき方もおられると思いますが、今年度の寄付金額の勢いが凄いいことになっております！1年の中でも12月が寄付のピークですが、『町報こうふ1月号』には

令和2年12月31日現在で【延申込件数 2,852 件（前年比+1,750 件）】

【延寄付金額 118,953,000 円（前年比+8,690.8 万円）】

なんと…い、い、壹億円！！数ある自治体の中から江府町を選んで寄付をしていただいた全国の寄付者様には感謝の気持ちでいっぱいです♪

寄付額がアップしている！！
それは、なぜだろう？



『ふるさと納税』業務は、江府町役場住民課とNPO法人こうふのたよりが協力し合いながら、寄付額をアップできるように日々、頑張っています！

- 寄付サイトを1つから4つに増設〔ふるさとチョイス・ふるなび・ANA・楽天〕
- 寄付サイトのこまめな更新作業〔寄付者様が思わず「江府町」をクリックするような工夫〕
- 返礼品の商品開発〔天然水の定期便、鳥取和牛や松葉がに、そしてJU米子高島屋が運営する「大山ブランド会」も江府町の返礼品として新たに追加しました♪〕
- 「正確かつ迅速」「丁寧さ」をモットーとした事務作業の徹底

「寄付額が増える」＝「江府町のために使えるお金が増える」ことです。

来年度はリピーターを増やし、更に寄付額がアップできるように江府町役場住民課とNPO法人こうふのたよりはパワーアップして頑張っていきます！！

■伝えたいことを伝える大切さ

毎年秋に行われる「少年の主張全国大会」各都道府県から選出された優秀な作品の中から最も優れた作品を目にする機会があった。とても考えさせられた。

言葉を紡ぐ

鹿児島県霧島市立横川中学校3年 池島音羽

「音羽ってさ、最近調子乗っているよね。偉そうにさ。まじ、ウザい。」

それは、突然のことだった。冬が静かに足音を忍ばせながら近づいてきたあの日。放課後の教室に冷たい風が吹き抜けた。息ができなかった。ただ、茫然と立ち尽くすしか。心の奥を鋭い刃物でえぐられる。無理に笑おうとすると、頬が引きつった。私、今、どんな顔してるんだろう。真っ白な世界にただ一人取り残された。頭の中に浮かぶのは、疑問だらけ。ついさっきまで、仲良く話してたよね。どうして。どうして私が。私、そんなに調子に乗ってたかな・・・何か、悪いことしたかな。

その日からすべてが変わった。ひそひそ話をする友人の姿を見ては、その場から逃げ出した。怖かったから。きっと自分のことを言っているんだらうって思った。そそくさと教室を出る私の背中に浴びせられた言葉。

「ほんとは何なのけ。ウザいんだけど。」

誰かに相談したくてもできなかった。相談したら、また何か言われるんじゃないかとおびえる日々。ベッドに横たわって意味もなく天井を眺めた。頭の中の何かがフツツと切れた。

気が付いたらそばに母がいて、私はすべてを打ち明けた。瞬きもせず私の話を聞く大きな瞳に泣きじゃくる私の姿が映っていた。

「今まで辛かったね。あんたはすぐに一人で抱え込む癖があるから、誰にも相談できなかったんでしょ。今、お母さんに言った気持ちをほんの少しでいいから相手の子に伝えてごらん。何も変わらなかつたら、また、お母さんのところへ戻ってきなさい。」

夕飯に出されたお味噌汁を一口すすると、心の中に溜まっていた何かがふっと抜けていった。久しぶりに感じたこの温かさ。でも、どうやって伝えたいの。直接、言える勇気なんて私にはない。だったら、どんな形であれ、自分の気持ちを伝えなきゃ。だって、私には帰ってこられる場所があるから。

その夜、私はスマホを握りしめた。LINEを開き、ずいぶんと更新されていない画面を見つめ、自分の思いをしたためた。何度も何度も文字を打ち直した。私が悪いのなら何かいけなかったを教えてほしいということ。陰で言われるのはとても辛いということ・・・。

送信ボタンを押す手が震え、どれだけの時間がたったのだろう。これがきっかけで何が変わるというのだろうか。

翌朝、既読のサインは付いたが、返信はなかった。学校についてもいつもと変わらない景色がそこにあった。

「ごめん。」背中越しに聞こえた言葉。それは、突然だった。伝わったんだ。少しずつ、私の世界に色が戻ってきた。「何か、気に入らないことがあったら、教えてね。」途切れ途切れの私の言葉。

スティーブ・ジョブズ氏は「想いを形にして、想いを言葉にして、想いを伝達する。いくら素晴らしいものを作っても伝えなければいけないのと同じ。」と語る。SNSは諸刃の剣。時には人を傷つけるが、人を救うことである。世の中は情報化社会だ。これから先も、私たちは情報の渦の中で生き抜くことになる。何を学び、どんな力を身につけなければならぬか。今、文科省が進める「GIGAスクール構想」この目的は一人一台のコンピュータと、一人一人の個性に合わせた学習の実現だと言われている。多くの情報を活用する力が私たちに求められているのだ。だが、その基盤にあるものは何だろう。どれだけ、情報化の波が押し寄せようとも、人間が人間としてあるためには、想いを言葉に紡ぎ、相手に伝えることではないか。そして、人と人がつながることで、新しい時代を築けるのではないか。帰宅した私を母が笑顔で迎えた。

「何か食べたいものある？」私は迷わず答えた。「お味噌汁。飲みたい。」

いかがでしたでしょうか。私はとても強く深く考えさせられました。感じることはそれぞれですが、こんな困難な世の中だからこそ、私たち大人はどんな相手に対しても真摯にきちんと言葉で伝えないといけないと、自省をこめて紹介しました。「伝えた」と思っている相手にも「伝わった」にはならないのですから。